



大松平 給
藤松平 井

藩鑑

三十四

庫文閣内	和書
三五九區一 二架	二八〇冊
三四八二號	

内閣文庫	
番號	和 34682
冊數	278 (35)
函號	159 i

藩鑑卷之四十四目錄

松平家

給大松平右近源真兼

同和泉守源家兼

同右近將監源兼邑

給大松平五右衛門源近正

同五右衛門源一生



藩鑑卷之四十四

大松平 給

左近源真乘まのりハ和泉守親乘ちかのり子こ

はしと源次郎と稱し父は徳川累代

の傳領三河國大給を領し

東照宮小仕くしりまつり而しの陣よ

供奉しし志らく戦功ありし

永祿十二年十二月遠江國榛原郡小
山のうちより二千貫文の地を増し
揚子天正十年二月十日辛酉と二
十七日あり

一 遠州榛原郡小山城を甲州惣の籠る
下りし
東照宮乞を攻めし終ふとき真乗軍
切あし小山をうら古水西河幸公殿

産屋産物系を小山川舟市せし
二千貫文の地を以て増あしその上逆流
をいましむるに判と揚る時
永祿十二年十二月十日なり真乗常
大権現の先手とて度々戦場小池
粉骨をたたく事
一 元龜元年江州姊川合戦の時真乗
大権現の先陣と列し朝倉の軍に

近代諸士傳畧

破りその功あり同二年三方合戦乃
とき河合久次郎信玄より討ま
しむる危ううしと云乗馬を馳
刀とつりて戦を励し敵陣をうち破る
少く久次郎免るるを好たり真栗とつ
をいひし川とつりて

寛永譜

一天正三年二州長篠合戦のとき武田勝
頼は玄々真栗山に楯籠る

大権現信長と相とるる西井左衛門忠次
小命にて真栗城を攻むるときは家人の
うち武事よるまじきものと撰ひて忠
次に去りて真栗をせめてむま乗る
家人も六騎の中より終に真栗山
の岩よりあがりて狼煙とありて是より
長篠の合戦大に勝利を得給ふ勝頼
敗北に

近代諸士傳畧

一天正六年

神祖騷州及枝の陣を攻む成り朝比奈
騷何事改貞是と防く大信の松平去葉
首七十餘級とけり大三川志

一 天正六年

大権現騷州藤枝より出馬ありて退陣の
とき去葉止つていへり款詠とてい
龍宮のまたる去葉とていへり中録八少

敵退きしより白月津の山に登る真葉是
と追討とき家人松本久由松平隼茂
河合常口梅村表八席伊共田次を傷近及
文右衛門武井角龜河合及十席珍母原と
席各有級とけり貞享書上

一同九年甲州の玄遠州高天神を攻り
楯籠る

大権現諸軍を率ありて是と攻らる去葉

城邊迫く御きく戦功と勵し識まされ
陥しとせらる時

大権現福徳織部守左衛門尉を陣中へきり
下作けらる城をあけ退るその死を
ゆき終る一と云ふ小の陣中一の名
作長と成織部守左衛門尉と出るとき
織部は是れ城中より一と云ふ書と織部
より一と云ふ織部守左衛門尉

大権現小堀一と云ふの陣中なる戦
言上り彼書をきくことと披見しり
まはるその詞小堀中根はきくまはり
戦死せしと云ふ日松平貞業の陣と藝
ひく戦死せしと云ふ

大権現志と云ふ一と云ふ貞業と云
先づ備しと云ふ三月その時よりハ
と云ふ貞業味を討く多しと云

級と改く 寛永譜

和泉守源家乗々左近真乗子あり
はるを保次市と稱す天正十年三月八日
りて父の遺跡をつき同十五年首服
て加へ御溝の字を賜りて家乗と稱す

同十八年

東照宮関東へ遷るもたふともき米地を
けりての上野國那波の地を賜りて不恩
ありて一万石を領す慶長元年六月